The Family
日本AEC協会加盟紙（新聞社等社会企業機関）
JAFNA
http://www.the-family.co.jp
発行部数500,000部　東京 192,904部　埼玉 84,814部　千葉 140,498部　神奈川 75,868部　茨城 4,316部　そのほか 1,540部
10月15日（金）
平成16年（2004年）
発行元 ㈱ファミリー
東京都新宿区古人町3-2-33
〒169-003 電話03(3205)0701㈹ FAX03(3205)0704
創刊1968年 ©2004年
（毎週金曜日無料発行）

個なこの人

朗読が始まるのとほとんど同時に、一葉の名作の舞台がパアッと目に浮かんでくる。あざやかな語りを聞いていると、心地よい言葉の力に身をまかせる喜びを教えてくれる。この道30年。舞台朗読というジャンルを切り開いてきた幸田さんは、女優さんの笑顔で答えてくれた。

樋口一葉作品朗読の第一人者
幸田 弘子さん

昨秋、旭日小綬章を受章

昨年は、樋口一葉生誕130周年だった。記念祭の行事で、幸田さんの朗読を聞こうとして集まった聴衆は、台東区の一葉記念館からあふれ、近くの公園で耳を傾けた。老いも若きも寒い曇り空のもとで真摯に聞き入っていた。熱烈な固定ファンもいて、若い人ならさしずめ追っかけというところなのだろう。

昨今は、大変な朗読ブームだが、ひと筋の道を歩んできた幸田さんが人気のあるなしに動じる気配はない。

「NHK東京放送劇団では黒柳徹子さんと同期で、黒柳さんはスターでした。私はといえば当時からずうっと朗読でいこうと思っていました」

だから、朗読では誰にも負けないという気概があり、それだけがんばってきた。

また、女優だと大勢の人とやるので時間をたくさんとられるが、朗読ならば1人で練習ができるので、子育て中に時間をとられすぎないよさがあったという。

朝の連続ドラマで浅茅陽子さんの「雲のじゅうたん」のお母さん役といったら、思い出す人も多いはず。

一葉を語る時、本は一切なし。すべてそらんじている。

「別に覚えようとして暗唱したのではなく、練習をたくさんしたので自然に覚えてしまったのです」

朗読だけで、数時間の舞台が持つのだろうかと思うかもしれないが、その表現力でたちまち聴衆の心をとらえてしまう。一葉だけでなく、泉鏡花、太宰治、瀬戸内寂聴など多くの作家の作品も手がけている。

2001年から「源氏物語」全54帖を埼玉・彩の国さいたま芸術劇場で取り組み始めていて、9年かけて完結の予定とのこと。

これは口頭訳ではなくこはやはり並みはずれた、武部の原文だ。

「皆さんお分かりになるのですね。本をお渡ししているので、見ながら聞いていらっしゃる。私も本をいとおしう開いています」

三年前にくも膜下出血という大病で倒れた。何もわからない状態で、病院で目をさました時に、注がれてくる家族たちの心配をうなずかせながら、大変な病気ということを感じたのだという。幸いなことに回復してそれからは毎回これが最後という思いで舞台にのぞんでいるとのこと。

少しも構えることのない、ストレートな東京人らしい方だ。

（道野辺もと子）

着物姿の美しい幸田さんが舞台で朗読する幸田さんご著書『朗読の楽しみ　美しい日本語を体で味わうために』（1470円・光文社刊）㊥

♥幸田弘子（こうだ・ひろこ）さん　東京生まれ。NHK東京放送劇団に入り、放送・舞台で活躍。主演した音楽詩劇「オンディーヌ」で文部大臣賞受賞。芸術選奨文部大臣賞、紫綬褒章、旭日小綬章など受章。叙勲歴多い。

舞台朗読の道切り開き30年
仕切り"これが最後"の思いで

〈幸田弘子の会開催のお知らせ〉

樋口一葉作「たけくらべ」の朗読会を11月11日㈭、12日㈮各午後2時、午後7時、13日㈯午後1時、3時、紀尾井小ホール（東京・千代田区）で開催します。入場料は一般4500円、学生3500円（全席指定）。問い合わせは幸田弘子の会＝☎03・5689・5755、紀尾井ホールチケットセンター＝☎03・3237・0061

《今週のMENU》

読者のページ	2・3面
このごろ・とい	5面
読売新聞	7面
30代～&女性	8・9面
情報・飛行船・テレビ・小説	10面
相談・ムダモの処理	11面
TVCM特集	13面
静岡で精進料理	14・15面
早ワザ料理	16面
プレゼント・ことば・家計簿	
プリデストン美術館	

女を生きる『樋口一葉』今週号からスタート